

NPO法人全日本シニアアンサンブル連盟 機関紙



vol.52

発行責任者： 芹澤 昭仁

編集者： 戸田 武夫

〒182-0012 調布市深大寺東町3-10-4

TEL/FAX 042-487-6403

e-mail : jse@jcom.home.ne.jp

http://members3.jcom.home.ne.jp/jse/

“連盟の目的は中高年の健康で生き甲斐のある生活と 国際親善に寄与することである”



NPO法人全日本シニアアンサンブル連盟理事長 芹澤 昭仁

昨年は3月11日という「悪魔の日」を迎え、東日本の福島・宮城・青森三県だけに限らず関東の中にも被害が及び、政府は「国難」と称し、官民一体となっての災害対策や復興対策が声高に、日々新聞などで叫ばれています。

勿論政府・国会を挙げて日夜対策が実行がされていますが、私達国民一人一人も被災地の復興に、出来る限り手を差し伸べなければならないと思います。

• •

さて連盟の使命・目的は何かと一度皆さんと考えてみたいと思います。

連盟は平成10年4月発足しました。そのきっかけについて、初代理事長村上忍氏は、機関紙創刊号に以下のように論じておられます。「合奏に打ち込んだ素晴らしい満足感を、一人でも多くの人に味わって頂き、広めたいというのがきっかけです」と。更に村上先輩は連盟が成り立つ為の条件として、まず構成員一人一人が「育成への意欲」が大切であり、他面に「機能する組織力」が必要である。とも言われています。

• • • • • • • • • • • • • • • • • • •

以上のような先輩達の思いが集まって、全日本シニアアンサンブル連盟が発足しました。

そして表記のように連盟の目的はまずは「中高年の健康で生き甲斐ある生活」でした。

そして連盟の唯一の事業は、毎年全国大会を開催するという、誠に壮大な構想でした。東京から地方へ、東北にも、北海道にも更に西の広島にも大会という花を咲かせました。

しかしながら、大会が一巡して10回目を迎えると、全体的に連盟の勢いが弱くなったように思われました。一つにはマンネリであり、他方財政的な問題もあります。

• • • • • • • • • • • • • • • • • • •

平成19年にNPOの承認を得たのを機に、連盟はその目的に国際親善を掲げたのですが、どのように向かって行くべきかをようやく見出そうとしています。

中国の天津市から連盟を迎えるとのメッセージが参りました。これはNPOの信頼感が大きく貢献していると思います。本部としてこれから本格的な折衝に入ります。連盟の新しい出発と言う気持ちで、国際親善の第一歩を力強くスタート出来るよう、皆さんのご理解とご協力を切にご期待申しあげます。

わたしとシニアアンサンブル

全シ連副理事長 萩原充行

◎すばらしい先輩たち

もう4年以上前になります。千葉シニアアンサンブルに誘われて、その発足の日に岡村さんと初めてお会いしました。振り返ると、その時点ではわたしの人生がちょっと変わりました。

シニア仲間が嬉々として練習に集まり、目標を目指して楽しく汗を流している姿。「ひとりでも多くのシニアに音楽の喜びを与える」の一念でそのような場を拓げてきた岡村さんの背中に感動。その意思に共感して、その後市原・四街道そして習志野の立ち上げに微力を尽くすことになりました。

新しい仲間に「お蔭で余生に生き甲斐ができました」と言われる事が現在わたしの大きな喜びになっています。

この岡村さんの理念はその後親しくご指導いただくことになった全日本連盟の芹澤理事長にも全く共通しており、お二人の使命感に燃えたエネルギーッシュな活動はわたしの憧憬するところです。

余生を迎えるに至って、わたしは素晴らしい先輩に巡り合えたことを感謝する共に、一人でも多くの仲間をお誘いしてお二人の夢を共有したいと願っています。

◎シニアアンサンブル活動とは？

ところで、こうした仲間が増えてくると、まま仲間内のエゴが生じてくるのが反省されます。前掲のお二人の先輩の目指すシニアアンサンブル活動はある意味で社会的事業です。「自分だけ、あるいは自分達だけ楽しけりやそれでいい」という狭い料簡の趣味の集まりとはちょっと違います。

「より多くのシニアに演奏とそれを聴く楽しみを拓げる」という、高齢化社会での貴重な事業の一環を担っているという自覚。すべての団員にそれを求めなくとも団のリーダーにはこの価値観を是非共有してほしいものです。

極端な例ですが先に入った自分たちの都合で新しい仲間の入団を断ったり、団員間の衝突で誰かを退団させたりすることは本来シニアアンサンブルにはあり得ないこと。大袈裟にいえばその団のリーダーには社会事業の一端を担っているという認識が求められていると思います。

岡村さんはシニアアンサンブルを①地域の交流②生涯教育③社会奉仕の場である、と明確に位置付けました。全シ連の加盟団体もその運営は迷うことなくこの理念を踏まえてほしいと願っています。



◎シニアアンサンブルのこれから

わたしが千葉シニアアンサンブルの代表を岡村さんから引き継いで、みんなで打ち出した運営原則は「団員主体の組織運営」で、指揮者は勿論団員間でも長期政権の独裁者を作らないという鉄則でした。幸い、その後わたしが関係した団体はその意図を生かしてくれていると思います。組織運営は時として煩わしいこともありますが、組織が持続する最大の要件だと思います。

もうひとつは、放っておくと団員の年齢は毎年上がります。ある時ほとんどが高齢となって活動が不可能となり、解散に追い込まれたという例を聞きます。加盟団体のリーダーは日常的に団の運営に心を碎いておられるでしょうが、時折10年後の先を見据え、後継者を育てて「組織の持続性」を考えてほしいと念願します。

一方シニアアンサンブルは団員にとって「終の棲家」として棺桶に入るまで仲間であってほしい。そのバランスの取り方には各団体固有の工夫が求められます。

◎奉仕の精神

シニアアンサンブル活動は奉仕の精神で支えられています。団員にはそれぞれの事情があるので全員が、とは必ずしも言えませんが、一部の団員だけに運営実務が集中しないようにできるだけ全員で積極的に役割を分担しましょう。さらには時宜を得たローテーションが必要でしょう。

全シ連も有能かつ前向きの協力者のご尽力に依存していますが、その方たちだけに負担が集中しないように率先して実務を分担していただける方を待望します。「今こそ青春！」を合言葉にみんなでこの素晴らしい事業を盛り上げようではありませんか！



第一回定期演奏会を終えて

市川シニアアンサンブル副代表 東谷すみ子



平成24年3月16日（火）第一回定期演奏会を、市川市文化会館ホールで開催いたしました。

昨年10月に開催されました全国大会が終わってから、演奏会に向けての練習が始まりました。

新曲も含めて17曲という曲数の多さに、不安と焦りがありました。岡村代表から「今回の演奏会は、日頃の練習場の延長として、お客様に練習の成果をご披露する、少し気楽な気持ちの演奏会にしたら」との提案があり、少し気持が楽になりました。

応援のゲストもお願いせず、自力でプログラムを組むことになりました。団員全員での役割分担も決まり12月には、発足以来恒例になりました、クリスマス会も楽しむことが出来ました。

1月から本格的な集中練習が始まり、午前・午後の特別練習日を3回設け、笹森先生の渾身のご指導に、私達も一生懸命付いて行きました。2月の特別練習日は、前日の雪で電車の遅れ、車の渋滞等のハプニングもありましたが、無事にこなすことが出来ました。そして迎えた演奏会の当日は、嬉しいことに朝からとても良いお天気で、朝日が後押ししてくれる様な、そんな気持ちで会場に入ることが出来ました。

リハーサルでも緊張する私達を、「間違いを恐れず大きな音を出すように」との先生と岡村さんからの声もかかり緊張感も少し和らぎました。

お手伝いをして下さる我孫子、千葉、船橋のスタッフの方々も遠いところを早くから来てくださいり、心の通う絆を強く感じました。

一番気になるお客様の入りも、平日なので心配していた程ではなく、少し空席もありますが、嬉しい入場者数です。

そして調布から遠いところを、全日本シニアアンサンブル連盟理事長の芹澤様が、お祝いに駆け付けて下さりご祝辞を頂き心強いです。

第一部はクラシックで「美しく青きドナウ」「シチリアーナ」など4曲、第2部は愛唱歌で「早春賦」「北国の春」等4曲、第3部はポピュラーで、「真珠採りのタンゴ」「ラ・クンパルシータ」等8曲、その内「私の回転木馬」は金光団員のボーカル入りで、アンコールを含めて17曲演奏致しました。

演奏に関しては、色々ハプニングもありましたが、私達は「本番に強い」と自画自賛で、満足のゆくものになりました。笹森先生からは「市川はこんなに上手かったけ」と思う一瞬があったと言って頂きましたので、これからは、一瞬が全曲になるように、市川は2年に一度の定演を目標にしておりますので、日々練習を重ねて行きたいと思っています。

当日は遠いところをお越し頂いた芹澤様、我孫子、あすなろ、千葉、船橋、市原、四街道、習志野の各楽団からのご来場、我孫子、千葉、船橋のスタッフの方々、ご協力を頂いた多数の方々に厚く御礼申しあげます。

夕刻から始まりました打ち上げは、大いに盛り上がり、仲良く、楽しく、心に残る宴になりました。

そして、何時も優しく熱心に指導してくださる笹森敏明先生、穏やかなトーンで、唄に、司会に私達の演奏を盛り上げてくださった、中山百合子さん、紙面をお借りしまして、改めて厚く御礼申しあげます。

震災義捐金は日赤を通して被災地にお届けしました。ご協力有難うございました。



市原シニアアンサンブルこすもす 第1回定期演奏会「春のうららのコンサート」レポート

● 平成24年4月8日（日） 14:00開演 ● 市原市民会館 小ホール（500席） ● 来場客：500名



さっさと楽器を片付けてカメラを片手にホワイエ（ロビー）に行ってみると、あっちこっちに人だかり。おしゃれなピンクブラウスのこすもす奏者の周りを囲む友人やご家族。ワイワイしている様子で演奏会が大成功だったことが伺える。

一年前の定演準備委員会が発足したときの暗中模索状態や演奏状況で途方に暮れていたことを思い出す。なかなか選曲も決まらず、練習会を積み重ねるも、人に聴かせられるような演奏レベルにはほど遠く、不安が膨らむ日々。間際の”駆け込み強化練習”で発覚した譜読みの間違いや、リズム取りの勘違いも時既に遅しでますます不安が脳裏をかすめる。ところが終わってみれば、お客様もこすもす奏者も大感動の演奏会。



500席がピッタリ埋まる客席！、完璧なMCナレーション！、見事な立ち振る舞いの裏方スタッフ！この日に合わせたかのように桜が満開！期せずして届いた（欲しいと思っていた）サクラの花。（永野さん、感謝！）予想を遥かに超えた子どもたちの心にしみる演奏。（三育小のみなさま、ありがとうございます）こすもす奏者の見事な演奏！！（リハではボロボロだったのに）大拍手やブラボーの声、手拍子や歓声で会場は熱気に満ちている。しかも終演は理想のドンピシャ16時！

これはいったいなんだ？。

直前に渡したのにもかかわらずすべて暗記してきたMCや一番乗りで駆けつけてくれた裏方スタッフ、そして、この演奏会にかかわるすべてのメンバーひとり一人の努力や熱意に、きっと天上の誰かが微笑んだに違いない。

・・・花咲じじいかな？

Report by hamada (市原SEこすもす)

千葉シニアアンサンブルそれいゆ 第2回定期演奏会レポート

● 2012年7月23日(月) 14:00開演

● 京葉銀行文化プラザ 音楽ホール (720席)

● 来場客: 750名



CEそれいゆの皆様、本当に疲れ様でした。

大勢のお客様でホールがごった返すくらいの入りだったというのですからすごいことでした。

とにかく団員が一致団結して今まで進めてきた甲斐があったというものです。

今頃は快い疲れを感じていることでしょう。

先生、痛むおみ足をかばつての指揮、どんなにか大変でしたでしょう。

無事にお宅におつきになったと聞いてほっといたしました。

本当に有難うございました。どうぞお大事に。

(真ん中の写真は熊谷千葉市長)

アンケートはなんと430枚集まりました。

1,000人以上入った全国大会のアンケートは、250枚と聞いていますから、これも記録的な数字です。

打ち上げの席上で時計回りに回しましたが、あまり沢山で見きれませんでした。

どれも「楽しいひと時を有難う」「元気をもらつた」「若い時を思い出した」「次もまた来ます」という、リピーターが増えそうな内容ばかりでした。

団員の米盛さんのご主人様から、お祝いを過分にいただきました。ありがとうございました。
会場で聴いてくださったそうです。今度感想をききたいですね。

ブログ上ではありますが、各シニアアンサンブルからたくさん応援が来てくださいり、受付、来客対応、会場係、舞台進行とてきぱきと進めていただきました。心からお礼を申し上げます。

特にステマネの濱田さんは、これ以上望めないくらいの舞台演出をしてくださいり、会場は次第に盛り上がりつていきました。

又本職であるピアノの調律もしていただきました。ありがとうございました。



ひまわり隊の隊長として（私が勝手に命名）大活躍だった丁さん。（もちろんソロとしての素晴らしい演奏も評判でしたが）ご自分で育てたひまわりと大きな鉢からポットまで持ち込んでいただきました。

そのポットには偶然にも「それいゆ」のマークが入っていたそう（写真）、ステージで陽の目を見たとおっしゃっていました。

7月25日の千葉SEそれいゆブログより
Report by 山崎 信子（千葉SEそれいゆ副代表）



謹んで故二川 博様の靈に捧げます

N P O全日本シニアアンサンブル連盟理事長 芹澤 昭仁

二川さんの訃報に接し、私は心を抉られた思いが致しました。

私にとって、全く思いもよらない強く、深い深い悲しみでした。恐らく、「ポニーかつしか」の皆様は勿論のこと、私達全日本シニアアンサンブルの仲間達にとっても、、、、、、



二川さん！貴方との「別れ」はあまりにも突然であり、そして、掛け替えのない「別れ」でした。

貴方は「アンサンブルかつしか」にとって、掛け替えのない存在であったと同時に、日本アマチュア演奏家協会（通称A P Aエイパ）の会長としてアマチュア音楽の振興にもご尽力下さり、その功績は高く評価されなければならないと思います。

私どもは二川さんの拓いて下さった道を、より太く、大きくするように努力することを、お誓い申しあげ、心から、ご冥福をお祈り申しあげます。

「二川 博さんを偲んで」

アンサンブルポニーかつしか 会長 上原 成介

我が楽団のバイオリニスト二川博さんが5月19日急性心不全でなくなりました。81才、まだまだ活躍出来ると思っていましたので、我々団員は大きなショックを受け残念でなりません。

二川さんが2007年に入団して来た時はアマチュア演奏家協会（APA）の会長を務められ、演奏家の間ではかなり有名な方でした。その意味ではシニアアンサンブルには希有な貴重な存在であったかと思います。シニア連盟の皆様には昨年秋の千葉大会に於いて二川さんがモンティの「チャルダッシュ」を独奏して好評を博したことをご記憶の方も多いかと思います。

二川さんは私のご近所の方の紹介で定期演奏会を聴きに来て直ちに入団しました。その年のシニア連盟広島大会にも参加し広島に向かう新幹線の中で芹澤副理事長（当時）と近付きになり二川さんの楽器（クレモナ？）を借りてしばし弾き『いい楽器で驚いた』と言われていたのがなつかしく思い出されます。

二川さんは大変ユーモアに富んだ方でしたのでいつも楽団員の笑いを誘い大事にされていました。又、音楽の他に油絵がお上手で上野の東京都美術館にたびたび出展、団員もよく足を運びました。

2009年にご子息がいる鎌倉市へ葛飾区から転居しその後2時間かけて月3回私どもの練習にかかさず参加してくれました。

私どもが二川さんのお陰と感謝している事は音楽全般に亘り団員に色々と教えて頂いたこととさらに現在の指揮者五十嵐淳先生を楽団にご紹介頂いたことです。

本当にありがとうございました。

昨年秋に肺炎で約1ヶ月間入院し、徐々に体力の低下があった様子で団員は皆心配していました。今年に入って再度の肺炎、5月に軽い心筋梗塞の発作で1週間の入院。退院したその日のお祝いの夕食会でご子息お孫さんたちに囲まれ、バイオリンを披露している時に発作が起り帰らぬ人となってしまいました。

孤独死が話題になる昨今ですが、お孫さんたちとバイオリンを楽しんでいる時に亡くなられたことはご遺族にとってわずかな慰めになるかと思います。

最後に五十嵐先生はじめ団員一同、二川さんのご冥福を心から願い合掌させて頂きたいと思います。



特定非営利活動法人 全日本シニアアンサンブル連盟

第15回定期総会議事録

1 日 時 平成24年4月15日（日）13:00～16:30

2 場 所 東京都調布市 調布市民文化会館“たづくり”1102学習室

事務局戸田の司会進行により第15回定期総会開催宣言があり、理事長の開会挨拶に続き戸田より本日の定足数の確認あり。

正会員数 19名 出席者数 17名（うち委任状2名） 欠席2名

3 議長及び議事録署名人2名選出

事務局の戸田より議長に清水玲子氏を、議事録署名人に佐野敬次氏及び林将人氏を推薦する旨の提案があり、全員異議なくこれを承認。直ちに議事に入った。

4 審議事項

- 第1号議案 平成23年度事業報告及び活動報告承認の件
- 第2号議案 平成23年度会計収支決算報告承認の件
- 第3号議案 平成23年度会計監査報告承認の件
- 第4号議案 平成24年度事業計画案及び活動計画案承認の件
- 第5号議案 平成24年度会計収支予算案承認の件
- 第6号議案 平成27年度以降の全国大会開催に関する件
- 第7号議案 理事の改選と事務局員の人選の件

報告事項 第12回全国大会（宇都宮）準備進捗状況について

5 議事経過の概要と決議の結果

第1号議案 芹澤理事長より報告があり、

鈴木：千葉大会会場での義捐金の贈呈先が高知県の団体となった経緯は？

萩原：被災学校にピアノを贈る運動を全国的に展開している団体で、本部が高知県にあること。今回の千葉大会の義捐金集めの趣旨に最適と思料する。

（領収書・感謝状とともにあり）

以上の質疑応答の後、全員異議なくこれを承認。

第2号議案 事務局会計担当小林より報告があり、

高橋：支出項目の中の「事故見舞金47,290円」につき本日出席された全会員に説明を要求あり

上原：アンサンブルポニーかつしかの団員斎藤マサ子（82歳）がホール内の練習室への移動中、階段から転落して顔面強打、鼻骨骨折の事故に遭遇。今大会では、斯種事故を担保する傷害保険に加入していないため、連盟としてお見舞と初期治療費（交通費も含む）の負担を第3回理事会で承認いただいた。

過去の事例としては、広島・横須賀大会では保険を掛けていたが幸い事故はなく、今回の事故を教訓として、自今、主催者・参加楽団も保険料は5千円前後と大きな負担ではないので保険加入を励行したい。

萩原：斯種危険をカバーする保険としては

- 1) 個人が付保する保険
- 2) 会場側が付保する保険
- 3) ボランティア保険
- 4) レジャー保険

の4種類がある。2)の会場側が付保する保険は、会場側に手落ち、瑕疵があると認めた場合に保険金が支払われるもので本件は難しいことと、千葉県連としては、今後の活動を展望するに会場側と事を構えるという事態は避けたい。

等の発言があり、議長採決の結果、全員異議なくこれを承認。

第3号議案 上原監事より監査報告があり、全員異議なくこれを承認。

第4号議案 芹澤理事長より

I 事業実施の方針

平成24年度は、全国大会の狭間の年に当たるので、次の2項目に注力したい。

- 1) シニアのためのプロ演奏家による公開講座
- 2) 近隣諸外国との国際親善・演奏旅行実現へ向けての情報収集と調査に注力。

II 事業の実施に関する事項

1) 特定非営利活動に係る事業に関しては杉並シニア林理事を中心に事業を展開したいとして、

以下林理事より議案書5ページ記載の事業の実施計画の説明があり。

川野：編成の内訳はどのようになるか

林：オーケストラの構成の中で考えている。弦と管を主体と講師も弦・管各1名。

事前に楽譜を配布して練習の上参加してもらう。パート別の分奏のあと、合奏の指導を受け、終了後懇親会にて参加者の交流をはかりたい。

上原：参加者80名の根拠は？

林：1人あたり2,500円位の参加費にするために80名の参加が必要になる。

萩原：音程・リズムのチェックには、鍵盤楽器も必要である。

上原：必要人数が集まるか？

林：千葉大会での管弦の対象者がほぼ100名いたので、80名とみた。

高橋：アンケートをとって具体的に数字を纏めたら如何？

清水：各楽団からの参加人数が決まらないと先に進まない。

川野：現状のパート練習とどこが違うか？

林：杉並シニアでは、新たなプロの指導者に替わって、団員各自の意識改革もあり演奏技能向上への意欲高まって、大変成果が上がっている。等の発言があり、高橋理事の発言による連盟本部にてアンケートを施することを決定した。

2) 国際交流に関しては、海外駐在経験豊富な萩原理事に種々情報の収集を願っている。国際交流と言ってもまず隣国中国を対象国として考え、萩原理事の提案で日本中国文化交流協会（会長堤清二氏）に理事長個人が本年4月に加入して、各種情報の収集と当方の希望条件に合いそうな相手を探す作業に着手した。

また、今日この総会会場に中国との関係が大変長く、且つ文化芸術方面にも造詣の深い方二人をお招きしたので中国事情を伺いたい。と元商社マンの幅館卓也様、徐福会の田島孝子様の紹介。続いてお二人から、渡航費用、現地での演奏会の持ち方、移動方法などにつき、いろいろな方法があること。費用も低廉に抑えることもある。との説明あり。

理事長：連盟としては、1回限りのイベントで終わることなく、継続したい。

萩原：本部から各楽団へアンケートをとってもらい、中国への演奏旅行についての関心の多寡、ニーズの強弱、参加希望者数などを把握したい。

上原：核となる楽団に、その他の楽団から希望者も一緒に参加する方法が良い。

同意見多数あり。

事務局にて早期にアンケートを実施することに決定。

III 活動方針

加盟楽団の増強 新規楽団の加盟促進

習志野シニアが千葉県連岡村理事長、萩原副理事長のご尽力で発足されており、当連盟20番目の加盟楽団となる。又今年は岡村氏のご努力で茨城県にまず2楽団誕生の予定。

イ) 既脱退楽団への復活の働きかけ

ロ) 加盟楽団の自主活動の更なる推進と、ジョイントコンサートなど隣接する楽団相互の交流を深める。

IV 活動計画

イ) 第15回 定期総会の開催 4月（本日開催）

ロ) 理事会の開催 7月、11月、25/3月の3回

ハ) 機関紙の発行 年3回

二) 各種資料の提供 ホームコンサート シリーズ 等

V 連盟財政基盤の強化

賛助会員増員の継続

支援団体獲得へのアプローチにつき事務局庶務から説明あり。

全員異議なくこれを承認。



第5号議案 事務局会計担当より説明あり、

川野：25年宇都宮大会支援金15万円を今年支出する理由は何か？

事務局：演奏会場予約費用をはじめ事前の諸準備の費用に充当するため。

萩原：「ひびきあい」発行費用8万円が必要か？

理事長：編集の場面では、レイアウト・写真の取り込み等業者に依頼せざるを得ない事。また、従来どおりのペーパーによる購読の楽団のための印刷（含用紙）・発送費用等で1回25千円内外、年3回発行で合計8万円必要。それでも従来の紙ベースの半分に抑えている。

山岸（宇都宮）：機関紙「ひびきあい」がホームページ上に載ることで印刷することが大変な負担となっている。全国大会の講評などは自楽団の講評だけの印刷に止めた。

北田：ページ数を少なくして欲しい。

高橋：「音楽と私」などの記事は原稿字数を制限すべき。

川野：千葉は印刷して回覧（まわし読み）をしている。

理事長：いただいたご意見・ご要望・ご提案を取り込みながら、読みやすいものにしたい。ただ、経費削減とIT化の時流につきHP上の貼り付けに尚一層のご理解とご協力を願いする。

等の発言があり議長採決の結果、全員異議なくこれを承認。

第6号議案 芹澤理事長より

来年のホスト楽団としては、鈴木副理事長（宇都宮）がホスト役を受諾して下さったが、27年度の開催地・ホスト楽団について受託を申し出る楽団なし。

高橋：連盟本部主体の企画に切り替えたら如何か。

理事会の協議事項として、理事会にて討議してもらうという意見多数あり。

全員異議なくこれを承認。

第7号議案 芹澤理事長より

現役員すべて平成24年4月4日をもって任期が満了しているが、引き続き役員の地位に留まり、連盟のためにご尽力を願いたい。ただし、松永恒文理事（市原）から、一身上の都合により理事辞任の申し出あり。

後任には同楽団から濱田文宏氏を推薦いただいた。理事の枠は12名のところこれで11名につき、もう1名として川野氏（千葉）を指名したい。と提案あり

川野：突然の指名に戸惑っていること、自身が千葉県連の役員を仰せつかつていて多忙、それに何よりも団の合意を得なくてはならない、等々で今回の指名は辞退する。との発言あり。

上記のあと、議長による表決の結果は下記の通り、

理事

（新任） 濱田 文宏（市原）	鈴木 基司（宇都宮）	岡村 齊能（市川）
（留任） 芹澤 昭仁（調布）	高橋 昭五（足立）	萩原 充行（四街道）
尼子 和世（豊中）	堤 通能（横浜）	佐野 敬次（新宿）
穴倉 和夫（船橋）	林 将人（杉並）	

監事

（留任） 清水 玲子（横須賀）	上原 成介（葛飾）
-----------------	-----------

被選任者は就任を承諾した。

（退任） 理事 松永 恒文（市原）

新事務局人選に就いては、定款の定めるところにより、理事長が前事務局長・山崎日出男（個人会員）退任による空席を早急に適任者を以って埋めるがその間は理事長が代行することとする、と発言。

全員異議なくこれを承認。

報告事項

第12回全国大会（宇都宮）準備進捗状況 鈴木氏（宇都宮）から

開催日 平成25年9月29日（日）栃木県総合文化センター メインホール

12:00会場 12:30開演

予算、演奏の持ち時間、楽団のグルーピングゲスト出演者の検討、等について現在までの準備状況、今後の計画等につき説明があり。

（文中敬称略）

以上、この議事録が正確であることを証します。

平成24年4月15日

特定非営利活動法人 全日本シニアアンサンブル連盟第15回定期総会に於いて

議長 清水 玲子

議事録署名人 佐野 敬次

議事録署名人 林 将人

特定非営利活動法人 全日本シニアアンサンブル連盟

平成24年度 第2回理事会議事録

- 1 日 時 平成24年7月22日（日）13：30～15：30
- 2 場 所 東京都港区新橋5-5-1 IMCビル会議室
- 3 参加者 芹澤昭仁 理事長 村上 忍 名誉理事長
 岡村斉能 副理事長 高橋昭五 理事 萩原充行 理事
 堤 通能 理事 林 将人 理事 佐野敬次 理事
 穴倉和夫 理事 濱田文宏 理事 清水玲子 監事 11名
 委任状 鈴木基司 副理事長 尼子和子 理事 上原成介 監事 3名
 賛助会員 丸林実千代先生（日本女子大准教授） 1名
- 4 議長及び議事録署名人
 司会・進行役 事務局 戸田武夫より、議長に理事長 芹澤昭仁
 議事録署名人には佐野敬次及び濱田文宏両理事に依頼したいとの提言があり、
 全員異議なく承認され、直ちに議事に入った。
- 5 審議事項
 第1号議案 平成24年度事業方針の件
 A 日フィル指導者による オーケストラの公開レッスンと合奏
 B 中国での国際親善としての演奏旅行
 第2号議案 第12回全国大会（宇都宮）進捗状況の件
 第3号議案 平成27年度以降の全国大会の件
 第4号議案 『ひびきあい』第52号の編集に関する件
 第5号議案 その他 情報交換（五色桜の会・各団の行事等）

6 議事経過の概要と決議の結果

今回の第2回理事会開催に先立ち、芹澤理事長から4月15日に開催された総会時に時間切れのため、未決定のままとなっている副理事長2名欠員の補充として、高橋・萩原両理事を副理事長に推薦したいとの発言があり、採決の結果、保留1名（穴倉）の他全員の賛同を得て議決。両理事共に就任を許諾した。

第1号議案

- A案 日フィル指導者による オーケストラの公開レッスンと合奏
 林理事； 目的は、各団の交流と合同演奏の楽しさを共有したい
 1回で完結する。3月頃に実施したい。
 集まりやすい市川方面で実施したい。
 実行委員を4-5名召集し、メールで相談したい
 濱田理事； 実行委員の一人として役立ちたい

B案 中国での国際親善としての演奏旅行

- 芹澤理事長； 目的は、日中の交流が各方面で活発になってきたこの時期に、
 シニアを中心とした音楽の交流をしたい
 日中文化交流協会を通じて、天津市人民対外友好協会の紹介で
 天津東方老年大学より受け入れの回答あり
 高橋・萩原両副理事長が中心となって、実行計画を作成し前向きに推進する。
 萩原副理事長； 条件等の質問を協会に提出した。
 岡村副理事長； 海外での演奏は楽器も多いので、念入りな下見が必要だ
 高橋副理事長； 設立時に国際交流を規約に入れた経緯もあり
 この機会にぜひ実現したほうがよい
 そのための指揮者に、了解を受けている

第2号議案 第12回全国大会（宇都宮）進捗状況の件。

芹澤理事長；鈴木副理事長より、『全国大会に向け諸準備が着々と進行している』と連絡があつたことを報告。

第3号議案 平成27年度以降の全国大会の件

村上名誉理事長；シニア連盟加入楽団増強の方策の一つとして、地方のシニア団体を県単位に調査したらどうか。

現行の全国大会も残したらどうだろうか

芹澤理事長；お客様を呼ぶより、各団の演奏を通して団員同士の交流の場にしたほうが、経費をかけず、会場もとりやすい。

萩原副理事長；今回の千葉大会も全体で1500名の集客に苦心した
シニアアンサンブルの存在を示すだけでは意味がない

清水監事；川崎にて、新しく10月より発足の予定です。

岡村副理事長；千葉で、4年前に団を立ち上げた。21名が35名になった
千葉の仲間が船橋・市原・四街道・習志野を立ち上げた

核を作つて、各県に広めてほしい

楽しく、向上心、社会奉仕が必要だ。熱心な初心者が中心だ
上手い人は、いろいろな団を渡り歩くので、柱にならない
全国大会をするなら、特命担当を作るといい

演奏を通して、感動を与えることが、永続の秘訣だ

萩原副理事長；団を立ち上げるには、なんにもないところからはできない。
支援する組織が必要だ。

音楽を通して、一人でも多くのシニアに喜びを分かち合うという理念の下に
全シ連加盟団体は自分たちだけよければよいというのではなくよそにも新しい団体を作つて仲間を増やしてほしい。

佐野理事；そのパートに仲間がいるのに、本番だけプロをつかいその場をしのぐやり方も、
無意味だ。

第4号議案 『ひびきあい』第52号の編集に関する件

芹澤理事長；萩原副理事長にお願いした。

第5号議案 その他 情報交換

清水監事；スルーザ横須賀の9月2日横須賀セントラルホテル4階での演奏会の紹介

岡村副理事；7月23日千葉アンサンブル-それいゆの第2回定期演奏会

10月20日船橋シニアアンサンブル第1回定期演奏会

芹澤理事長；11月頃理事会を予定している。

濱田理事；今後ホームページの管理をしたい。新鮮な情報を発信していく。

芹澤理事長；ホームページの活発な活用を期待しております。

(文中敬称略)

平成24年7月22日

特定非営利活動法人 全日本シニアアンサンブル連盟平成24年度第2回理事会に於いて

議長 芹澤 昭仁

議事録署名人 佐野 敬次

議事録署名人 濱田 文宏

全シ連のホームページが、新しくなっています。

<http://members3.jcom.home.ne.jp/jse/>



「全シ連」で検索ください



コンサートの開催情報を寄せください。お待ちしております。

→「加盟団体専用・演奏会情報投稿フォーム」から、どうぞ。

平成24年度賛助会員（敬称略）

平成24年7月現在

【個人】 1口 5000円

【団体】 1口 10000円

丸林実千代（2口）	星ハウジング（2口）
芹沢昭仁（2口）	
清水玲子（1口）	
尼子和世（1口）	

予告

天津文化交流演奏旅行

詳細は近日中に発表します。

1. 訪中時期：来夏(2013年)6～7月頃を計画

2. 人 数：20～30名を募る予定

3. 交流形式：日中双方のSEによる演奏交流

企画中

♪ 第1回 アンサンブル・クリニック

プロのオーケストラ奏者の指導による「公開アンサンブル・クリニック（仮称）」を企画しています。

目的はシニア各団の交流と、大勢での合同演奏の楽しさを共有することにあります。

"参加することに意義がある"、と考えてほしいです。（技術の優劣は問題外）



ご期待ください ♪



写真は本文の内容とは一切関係ありません。

編集後記

52号の「ひびきあい」は、市原シニアアンサンブルの濱田様のご尽力により、デザインを一新し発行することができました。心より御礼を申し上げます。

今後このホームページが、音楽を愛するシニア仲間との交流の場として活用していただき、それぞれの楽団の演奏活動に、応援をしていただけたらと思います。

2012年は、中国親善演奏旅行や、アンサンブル・クリニック（仮称）を企画しております。

「ひびきあい」を通して、アンサンブルの楽しさを感じていただけたら幸いです

皆さまのご活躍を、お祈りいたします。

萩原副理事長と市川シニアアンサンブルの東谷様には、ご多用の中原稿を引き受けていただき、感謝申し上げます。

戸田記